

県立大・体験プログラム

ハタハタ料理に挑戦

学生15人 男鹿で漁港も見学



しよつる鍋に使うハタハタをさばく学生たち。県立大大潟キャンパス「フィールド教育研究センター」

「遊び」をキーワードに実体験を通して学生の行動力や社会性を養う県立大(小林俊一学長の学生支援プログラム「薫風・満天フィールド交流塾」がこのほど、スタートした。第一回は食文化がテーマ。学生たちは、季節ハタハタ漁が行われている男鹿市の北浦漁港の見学や、ハタハタを使った料理に挑戦した。

交流塾は自然の中で遊ばせられた季節ハタハタんだり、社会との交流を通し、学生たちのコミュニケーション能力や協同性を養うのが狙い。大潟村の大潟キャンパス「フィールド教育研究センター」を活動拠点に、今月はハタハタずし作りや、なまはげのケデ作りのほか、大みそかの三十一日には男鹿市で「なまはげ」体験を計画している。

第一回には学生約十五人が参加。北浦漁港で水

揚げされた季節ハタハタの選別作業や荷揚げ場などを見学した後、学生たちは同センターでハタハタを使った料理「しよつる鍋」作りに挑戦。一時間ほどで完成し、テーブルを囲んで全員で試食を楽しんだ。

佐々木玲奈さん(二〇)は二年、青森市出身。は前からハタハタが好きで、本場の漁の様子などを見たいと思っていた。話を聞いたり、実際に作

ったり、楽しかった。加工食品など『食』について興味があるので、さまざまな体験を将来に結び付けたい」と話した。

「交流塾」は、文部科学省の「新たな社会的ニーズに対応した学生支援プログラム」に選定され、本年度から四年間、計一億円が助成される。